



第5回企画展「ニシンの漁撈」  
(~12月24日)の完成です



大切な資料をレイアウトどおり  
手ぎわよく展示します



展示するパネルを作ります



ピカピカになるまで、展示資  
料のクリーニングをします

# 企画展がオープンするまで……

ちよつとやさつとの苦勞じやありません



まず、企画展の企画会議を  
します。アーダ、コーダと。



展示室のレイアウトを考え  
ます。これはソッチ、それ  
はアッチと。



展示する資料を収蔵庫から  
出します

- 【平成2年度】
- 特別展 「謎のステラ海牛 死滅した動物たち」
  - 企画展 「貝のせかい」
  - 企画展 「シマフクロウ」
  - 企画展 「北の人々の生活」
  - 企画展 「地図と写真でみる留萌のむかし」
- 【平成3年度】
- 特別展 「留萌の自然」
  - 企画展 「ニシンの漁撈」 8/3~12/24



郷土資料を収集する  
のも大切な仕事です



資料を記録カードで  
整理しています



いつでも待ってます  
学習相談



研究室での専門職員

海のふるさと館  
資料館の仕事は  
こんなんでっせ……。

海のふるさと館の仕事は、開館前の展示室の資料、機械の点検にはじまり、展示室では、観覧者への展示解説があります。

一方、作業室では、寄贈された資料をクリーニングし、写真撮影、形状を計測して、記録カードに整理、資料に番号を付けて整理し、分類して収蔵庫に保管される。

研究室では、学習会や特別展の企画立案準備、そして資料や文献をもとにした調査研究の継続。

この仕事は、やがて収蔵資料や紀要として、冊誌にまとめられ発刊される。

そんな中で、鳥や海獣などを捕獲したので、取りに来て欲しい。こんな古い資料があったら貸して欲しい。松浦武四郎のことを、もっと勉強したいのでとの学習相談、ニシン漁業のことを知りたいと京都の小学校からの資料照会などが飛び込んでくる。

工事に伴う埋蔵文化財の調査やパトロール、資料所在調査の外勤など、海のふるさと館の毎日はあわただしい。



展示の解説



出版された資料と文献